

背景

高知県にはたくさんの観光地が存在する。その1つに種崎千松公園がある。種崎千松公園は江戸時代から残される松林があり、その松林は松林の100選にも選ばれているほどにとてもキレイな並木が公園内に続いている。しかし高知県の観光地としての知名度は低い。種崎千松公園は種崎の浦戸湾に面しており、すぐ向かいには高知県を代表する観光名所である桂浜があることが千松公園の知名度がなかなか上がらない理由ではないか。

現況

現在、千松公園は松林の遊歩道の中にキャンプ場、ゲートボール場といった広場が設置されています。平成9年には海岸環境整備計画が行われ、新たに海浜公園が開設され海水浴場としても利用されています。



海浜公園全体



松林の遊歩道



キャンプ場



公園

目的

桂浜に設置されている桂浜水族館を千松公園に移動させ、それぞれの観光地の魅力をあげるとともに、観光客に観光地への選択範囲を広げることで、より充実した観光巡りを堪能してもらうことを目的とする

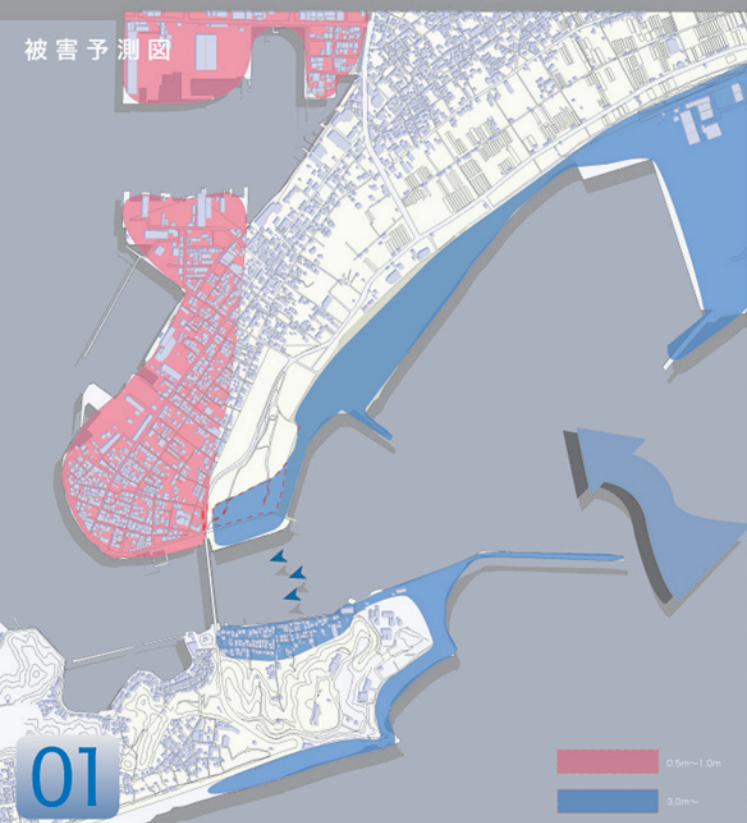
計画

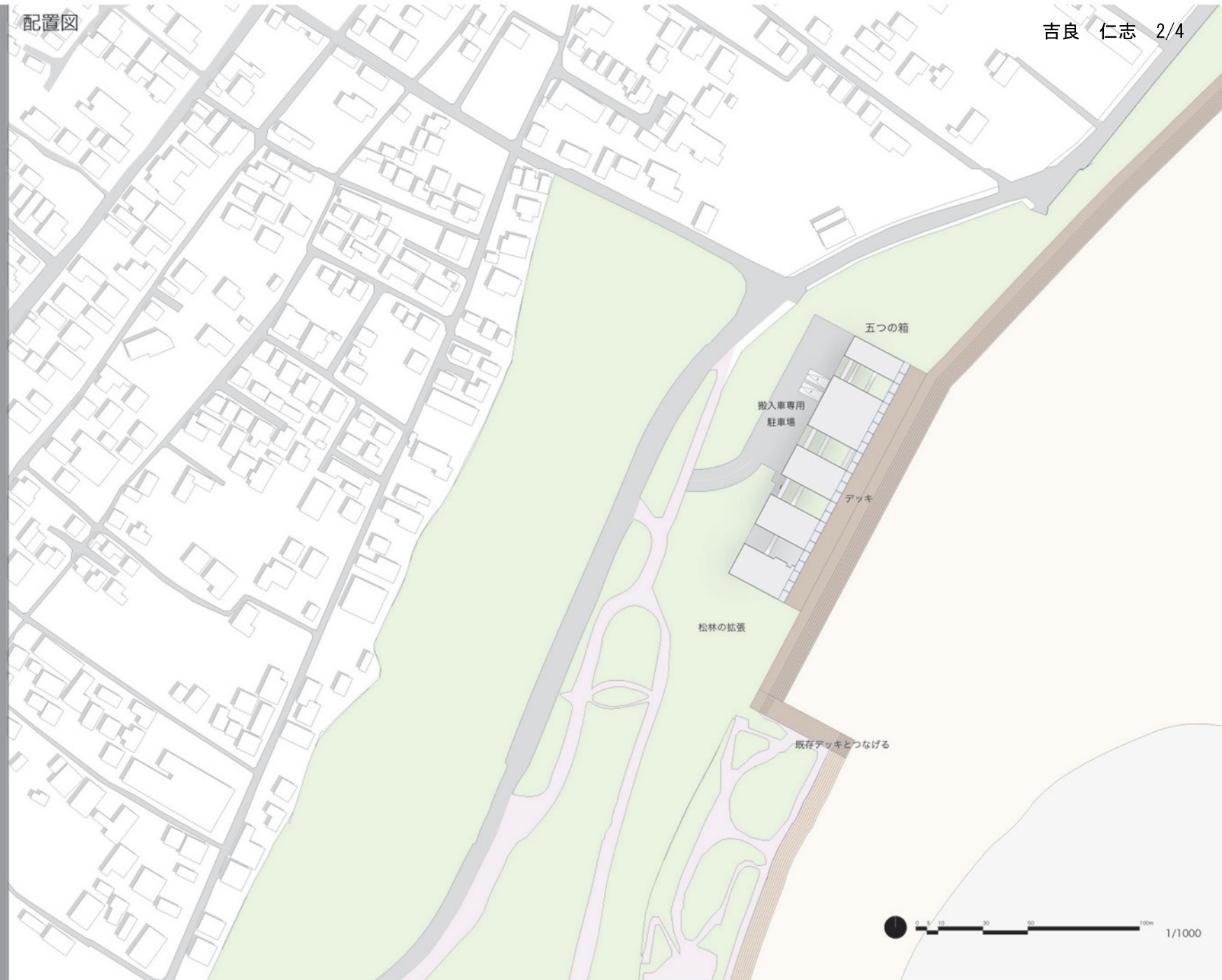
桂浜は歴史を感じることができ、浜辺の景観もとても美しい観光地として知られている。その中で桂浜水族館のみ歴史と文化としてのカテゴリーから外れているのではないかと考える。そして桂浜の美しい景観に現在の水族館は相応しくないのではないかと考える。そこで桂浜には歴史的・文化的要素のみを残し、水族館を千松公園に移動させることで、桂浜は歴史的観光地。千松公園はレジャーを楽しむことができる公園施設として計画していく。もう一つの問題として近い将来必ず起きる南海大地震により、現在の水族館が設置されている場所は津波の猛威が襲いかかる。そのことも踏まえ計画地を選んでいく。

浸水予測

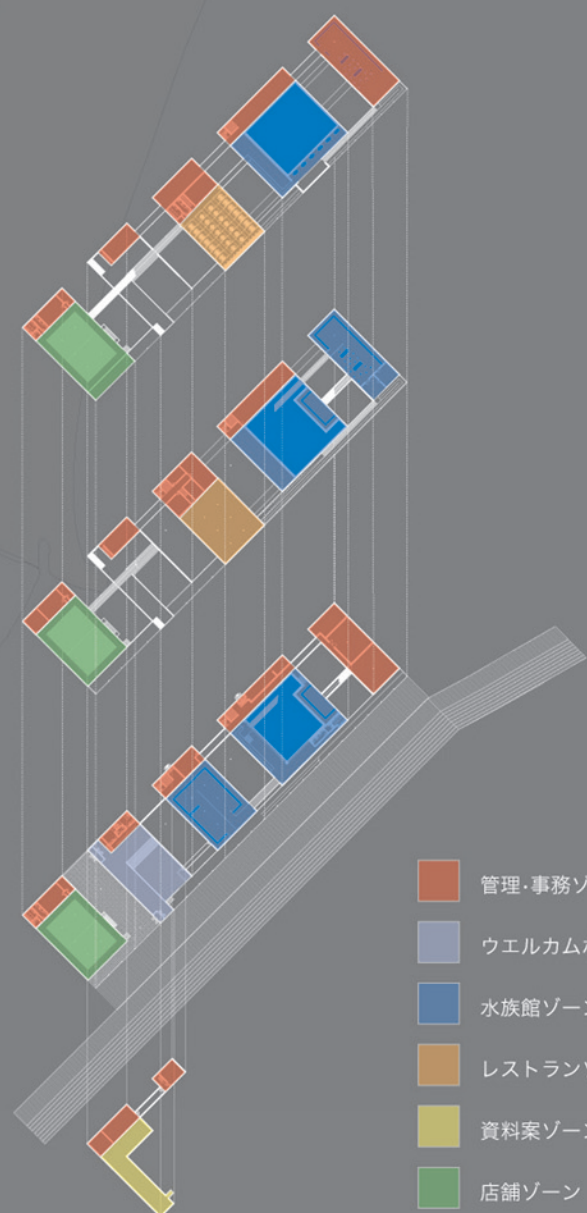
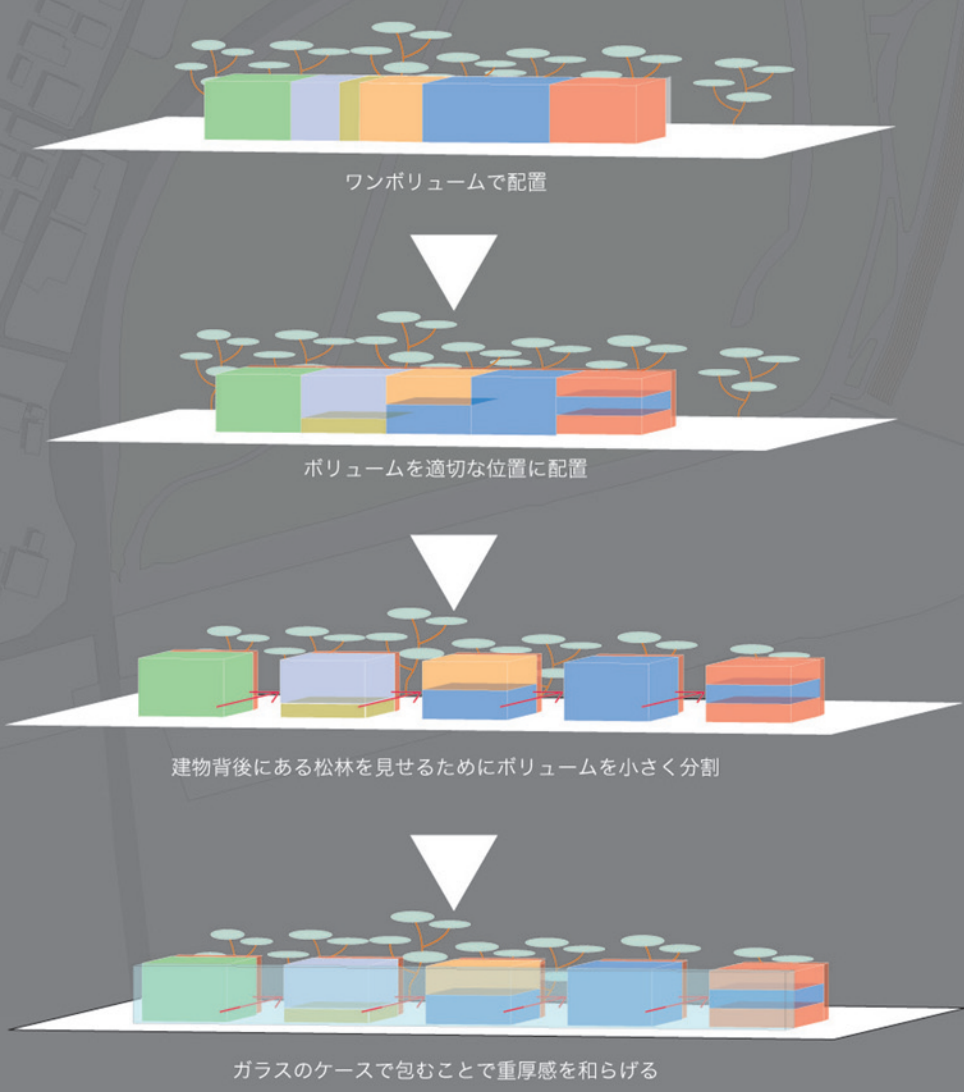
地震後太平洋沖で津波が発生し桂浜、高知新港などに7m級の津波が襲いかかる。その時に浦戸湾にも津波が入り込み浦戸の海を伝わり市内全土に影響が及ぶと予測されている。津波によって浦戸湾、桂浜周辺の町は多い所では3m程の浸水するとされている。これは津波対策である防波堤がうまく機能していないという事を示している。防波堤である程度の津波は回避できたとしても、その後はどうしても防波堤によって直接被害を免れた地域であっても浸水してしまっていることである。浸水予測図をみて分かるとうり、高知新港、種崎周辺の浜辺、桂浜、花海道などは3mもの浸水は覚悟しなければならぬ。浸水地域はそこだけでは留まらず種崎の住宅街、桂浜の脇に点在している民宿街にも被害が及んでいることが分かる。

被害予測図

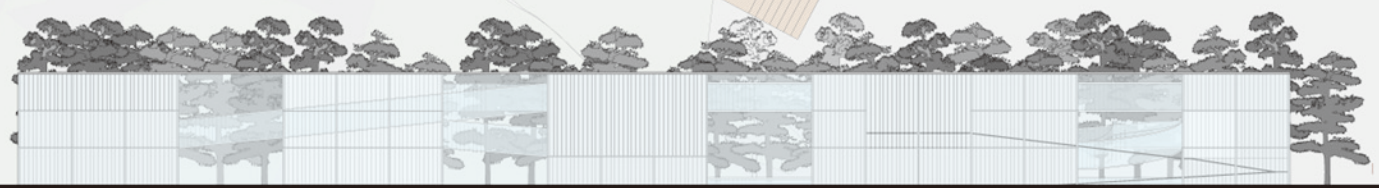




建物ゾーニング



平面図



南立面図



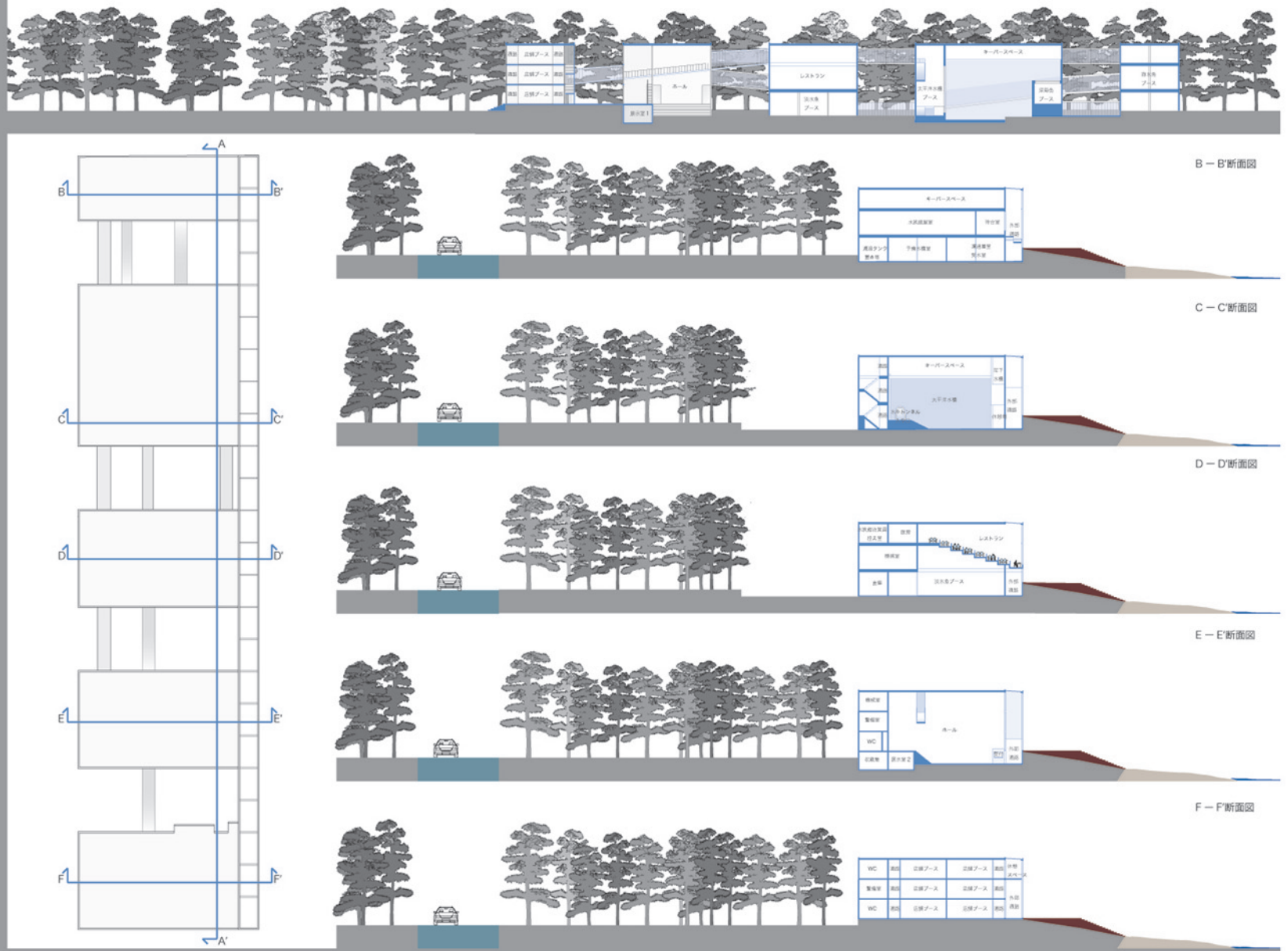
北立面図 (松有り)



北立面図 (松無し)



断面図



建物動線

